

性能基準と仕様基準の比較

設備を規定する方法として、性能基準と仕様基準が存在します。本市が計画している処理施設の発注は、「性能保証発注」であるため、性能基準が基本となります。

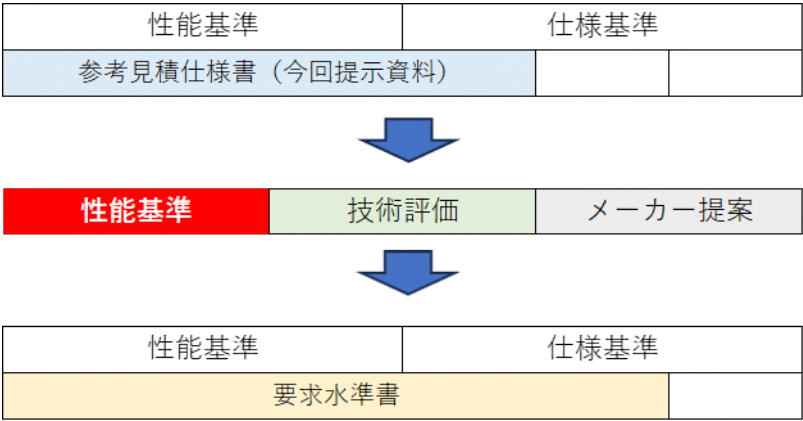
表一 性能基準と仕様基準

	性能基準	仕様基準
特徴	規定の目的と要求する性能を記述	材料、形状、寸法等を具体的に記述
長所	自由な発意で設計が可能 海外製品導入等が容易 技術進歩を促進する 実現する要求水準が明確	具体性がある 誰にも理解しやすい 設計に特に高い能力を求めない 適合性の審査が容易 一定水準の性能を得ることが容易
短所	審査に高度な技術が必要 設計に高い能力が求められる	実現する性能水準が不明瞭 代替性が小さい 技術進歩への対応性が低い

出典：「原子力安全の基準 設計・評価・管理の視点」朝倉書店（2025 年）

ただし、性能基準のみで発注すると、メーカーの自由度は高くなりますが、コストの高騰や必要以上の仕様内容となる危険性があるほか、短所の欄にあるように、発注者側での技術審査（本業務においては「技術評価」と言っています）が困難になります。

そこで、「廃棄物処理施設の発注仕様書作成の手引き」（環境省大臣官房廃棄物・リサイクル対策部廃棄物対策課）を参考に、メーカー提案の余地を残しながら参考見積仕様書を作成しています。その内容を概念的に図で示すと、以下のようになります。今回は、性能基準を明記したうえで、必要最低限の部分を仕様として示し、残りの仕様基準をメーカー提案に委ねます。



図一 参考見積仕様書と技術評価及び要求水準書の関係

その後、技術評価を行い、メーカー提案の良い部分を取り入れ、最終的な要求水準書としてまとめます。その場合でも、あくまで性能保証発注であるので、仕様基準の一部はメーカー提案事項として設計の自由度を残します。